

A：達成見込み、B：おおむね達成見込み、C：達成困難

施策05-01 子どもの可能性を伸ばす教育の充実

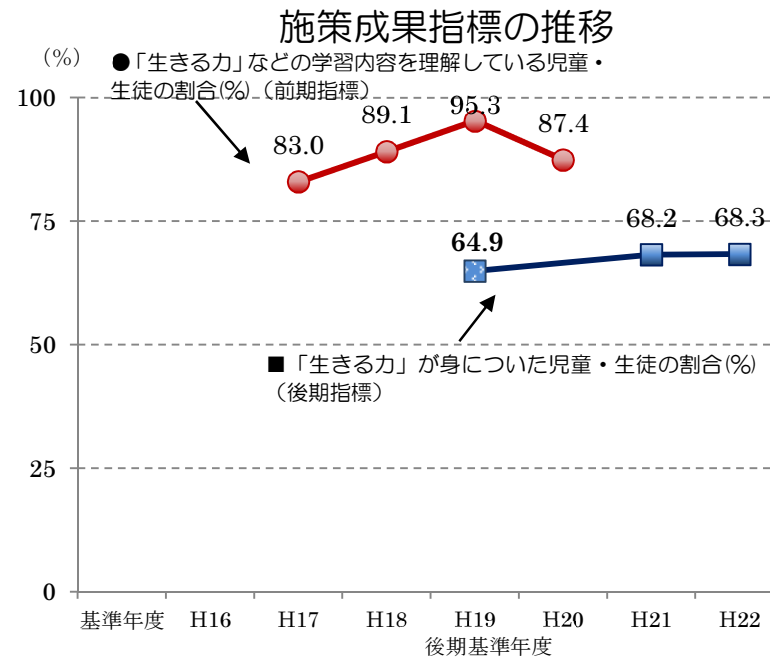
目的	子ども一人ひとりの個性をとらえ、知育、徳育、体育の教育的営みの中で、「個々に応じた教育」を実践することによって、社会に貢献できる人材を育成します。			
対象	小・中学生			
成果指標 (施策の目的達成度を示す指標)	後期基準値 (平 19 年度)	現状値 (平 22 年度)	見込値 (平 25 年度)	後期目標値 (平 25 年度)
「生きる力」が身についた児童・生徒の割合(%)	64.9	68.3	68.6 A	→

前期基本計画取り組み結果

学校選択制、地域一体型学校顔づくり事業、学校評議員制度など、様々な学校活性化事業を進めるとともに、特別支援教育やチームティーチング、習熟度別授業などきめ細かな授業の充実を図ってきました。

また、職業観の醸成のため、連続5日間の職場体験を行うキャリア教育や食の大切さを学ぶ食育など、生きる力を身につけるカリキュラムを工夫してきました。

その結果、前期成果指標は毎年上昇し、高い水準になっております。



後期基本計画の取り組み状況と目標達成見込みの説明

子どもたちが自ら考え様々な問題に積極的に対応できる力を育むとともに、たくましく生きるための健康や体力を培うため、基本事業の教育内容の充実では、チーム・ティーチング(授業において複数の教職員が連携・協力して指導する方法)や小人数指導など児童・生徒へのきめ細やかな対応を行うとともに、学校支援ボランティアの派遣を行うなど、一人ひとりの理解度に応じた指導を行うことにより、成果指標の勉強が好きと答える子どもたちや授業が分かる子どもたちの割合を伸ばし、また、不登校児童・生徒数については、学校等の粘り強い指導とともに、地域や家庭の課題に対応できるスクールソーシャルワーカーを配置したことなどにより減少しており、後期目標をおおむね達成できると考えています。

また、基本事業の開かれた学校づくりについては、学校の一斉公開や各学校のホームページで学校の紹介を行っているほか、学校評議員へ地域の方を委嘱し、学校関係者評価へ保護者や地域の方の意見を取り入れ、また、地域住民が協力して児童生徒の登下校の安全確保に努めるなど、学校と地域が連携した活動を行っており、こうした取り組みによって後期目標をおおむね達成できると考えています。

基本事業の健康と食育の充実に関しては、栄養教諭による「食に関する指導」や、学校における食育への取り組みが正しい食習慣を身につけることや食の大切さの理解につながってきており、おおむね後期目標を達成できると考えていますが、スポーツに親しんでいる児童・生徒の割合の上昇は難しい状況にあります。このため、児童生徒体力向上事業などに継続して取り組み、日頃から運動に親しみ、望ましい生活習慣を確立することができるよう努めているところです。

一方、基本事業の教育環境の充実については、現在、学校の統合について地域と協議しているところであるため、適正規模の学校の割合については後期目標の達成が難しい状況ですが、校舎・屋内体育館・屋外施設など学校施設については、優先度、緊急性に配慮しつつ計画的な整備と耐震化を進めたことにより、おおむね後期目標を達成できると考えており、今後はレンガ造校舎への対応を進め、一層の安心・安全で快適な教育環境の確保に努めていきます。

こうした各基本事業の取り組みが総じて順調に進んでいることから、施策の成果指標である「生きる力」が身についた児童・生徒の割合が上昇し、後期目標を達成できると考えています。

基本事業05-01-01 教育内容の充実

目的	特色ある教育メニューをつくり教育内容の充実を図ることで、子ども一人ひとりの個性に応じた教育が受けられるようにします。また、障がいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育的支援が受けられるようにします。			
対象	小・中学生			
成果指標	後期基準値 (平 19)	現状値 (平 22)	見込値 (平 25)	後期目標 (平 25)
教科の勉強が好きと答えた児童・生徒の割合(%)	68.0	70.5	73.0 B	→
学校の授業が分かると答えた児童・生徒の割合(%)	95.3	90.3	95.3 B	→
不登校児童・生徒数(人)	89	78	75 A	75

基本事業05-01-02 開かれた学校づくり

目的	学校、家庭、地域が連携して開かれた学校づくりを進めることにより、子ども達を健康的に育みます。			
対象	小・中学生・地域			
成果指標	後期基準値 (平 19)	現状値 (平 22)	見込値 (平 25)	後期目標 (平 25)
学校、家庭、地域が連携していると思う市民割合(%)	67.0	(H21) 67.3	67.9 B	→
学校が地域交流の場として、活用されていると思う市民の割合(%)	53.4	(H21) 54.0	55.2 B	→

基本事業05-01-03 健康と食育の充実

目的	正しい生活習慣を身につけ、食の大切さを理解しスポーツに親しむことによって、心身ともに健康な身体を育みます。			
対象	小・中学生、保護者			
成果指標	後期基準値 (平 19)	現状値 (平 22)	見込値 (平 25)	後期目標 (平 25)
朝食を食べて学校に通う児童・生徒の割合(%)	81.9	84.6	85.2 B	→
学校給食の残食率(%)	18.8	18.7	18.0 B	18.0
スポーツに親しんでいる児童・生徒の割合(%)	64.5	(H21) 60.2	64.5 C	→

基本事業05-01-04 教育環境の充実

目的	学校の適正規模化を推進し、さらに学校施設の整備を図るなど教育環境を充実させることで、子ども達にとって安全で快適な「学び舎」にします。			
対象	学校施設			
成果指標	後期基準値 (平 19)	現状値 (平 22)	見込値 (平 25)	後期目標 (平 25)
適正規模(12クラス~18クラス)の学校の割合(%)	44.8	48.3	46.4 C	50.0
学校施設維持管理上の不具合のうち授業に支障が発生した件数(件)	0	0	0 A	0

A：達成見込み、B：おおむね達成見込み、C：達成困難

施策05-02 生涯学習の充実

目的	生涯にわたって学習できる環境を整えることによって、市民が生涯学習を行う機会が増加し、自己の充実を図り、生きがいを見いだすことができるようになります。			
対象	市民			
成果指標 (施策の目的達成度を示す指標)	後期基準値 (平19年度)	現状値 (平22年度)	見込値 (平25年度)	後期目標値 (平25年度)
生涯学習を行う市民割合(%)	38.7	(H21)44.1	47.5 A	→

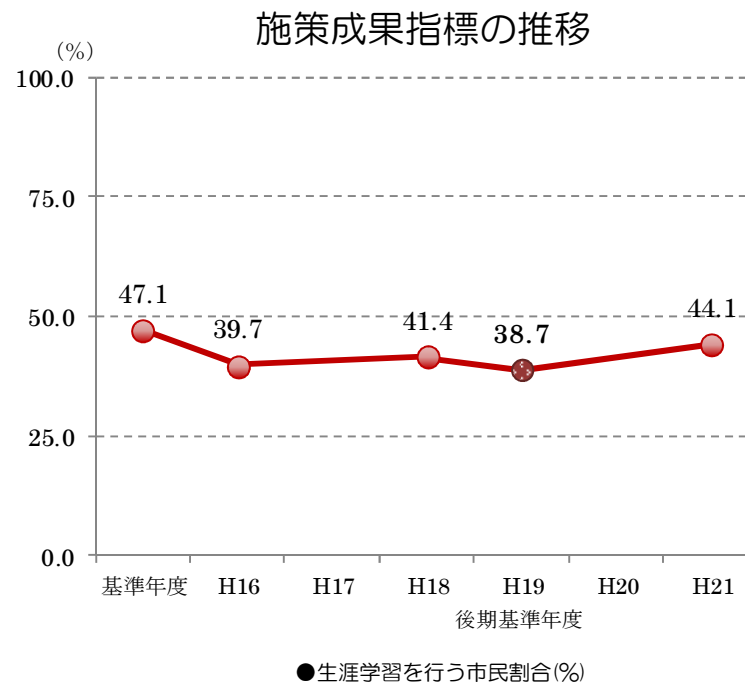
前期基本計画取り組み結果

少子化、核家族化の進行などにより、住民同士の連帯感が希薄になっており、家庭や地域での教育力の低下が指摘されています。

そのような環境の中、生涯学習環境の充実のため、情報図書館の夜間開館の実施や、指定管理者制度導入により自主事業や講座などの新たな取り組みが図られたところであります。

成果指標に関しては、支援体制の推進のため、ホームページの充実や団体情報誌の発行を支援しましたが、高齢層において時間的又は経済的な理由により、生涯学習を行う市民の割合は減少する結果となりました。

これは施設の新設や改修などの「場」の整備が進まないことなども影響したと考えられます。



後期基本計画の取り組み状況と目標達成見込みの説明

基本事業の生涯学習関連施設の充実については、前期から引き続き取り組んでいる情報図書館の夜間開館のほか、公民館における指定管理者による繁忙期の月曜開館など新たな取り組みを進めてきたことから成果指標の後期目標を達成できると考えています。

また、生涯学習支援体制の推進については、青少年の自然生活体験活動への支援や音楽、文化活動への支援などの取り組みにより、成果指標の後期目標を達成できると考えています。

生涯学習機会の充実についても、指定管理者との連携や関係団体との連携した取り組みや幼児と親がふれあう青空子どもの広場、高齢者の生きがいづくりの蒼樹大学など、幼児から高齢者まで様々な生涯学習の機会の提供により、後期目標をおおむね達成できると考えています。

こうした基本事業の取り組みが順調であることから、施策の成果指標の「生涯学習を行う市民割合」については、後期目標を達成できると考えています。

基本事業05-02-01 生涯学習関連施設の充実

目的	図書館や公民館などの施設を充実させることにより、生涯学習に取り組む市民・団体に学習する場を提供することができます。								
対象	生涯学習関連施設								
成果指標	生涯学習施設が充足していると思う市民割合(%)	後期基準値(平19)	71.1	現状値(平22)	(H21)73.5	見込値(平25)	74.0 A	後期目標(平25)	→

基本事業05-02-02 生涯学習支援体制の推進

目的	市民に学習に関する情報を提供したり実施団体に対して補助・支援を行い、利用者が自分たちで活動・学習内容を選択するための情報を得ることができるようにします。								
対象	学習情報の利用者、生涯学習を主体的に行う団体								
成果指標	生涯学習の情報が充足していると思う市民割合(%)	後期基準値(平19)	70.5	現状値(平22)	(H21)71.7	見込値(平25)	73.0 A	後期目標(平25)	→
	生涯学習を主体的に行う団体数(団体)		240		249		250 A		240

基本事業05-02-03 生涯学習機会の充実

目的	生涯学習を受ける機会を充実させることによって、様々な生涯学習に取り組む市民が増えるとともに、その学習成果を社会の中で活かすことができます。								
対象	生涯学習に取り組む市民								
成果指標	生涯学習機会が充実していると思う市民割合(%)	後期基準値(平19)	70.2	現状値(平22)	(H21)71.9	見込値(平25)	73.0 A	後期目標(平25)	→
	学習した成果をまちづくりやボランティア活動等に活かしている市民の割合(%)		-		(H21)24.9		26.0 B		→

A：達成見込み、B：おおむね達成見込み、C：達成困難

施策05-03 青少年健全育成の推進

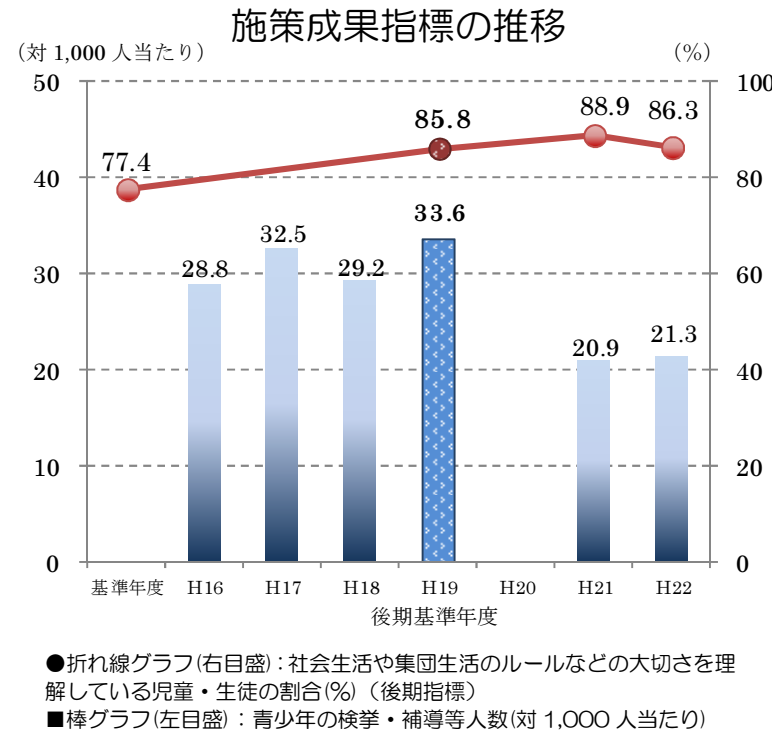
目的	青少年にとって基本的な生活の場である学校・家庭・地域が連携して青少年の悩みや問題行動の解消に努め、青少年の健全育成を目指します。			
対象	小・中学生、高校生、保護者、地域住民			
成果指標 (施策の目的達成度を示す指標)	後期基準値 (平19年度)	現状値 (平22年度)	見込値 (平25年度)	後期目標値 (平25年度)
社会生活や集団生活のルールなどの大切さを理解している児童・生徒の割合(%)	85.8	86.3	88.0 A	→
青少年の検挙・補導等人数(対1,000人当)	33.6	21.3	21.0 A	30.0

前期基本計画取り組み結果

少子化やひとり親家庭の増加など家庭の小規模化、不安定化が進行し、地域においても連携意識の希薄化などが進んでいます。

また、インターネットや携帯電話の普及などの情報社会の変化は、新たなコミュニケーションのあり方を提供し、ボランティアや国際貢献、起業など若年層に好ましい影響がみられる反面、非行、不登校、ひきこもり、虐待など社会の不安定化や社会的自立の遅れによる問題も引き起こしています。

成果指標である検挙・補導された青少年数は増加傾向にありますが、主たるものは、刑法犯では「占有物横領」、補導では「喫煙」の増加が見られました。



後期基本計画の取り組み状況と目標達成見込みの説明

少年指導センターの指導員・育成委員による街頭巡回指導や江別市指導連絡会等を通じた学校等関係機関連携による問題行動への取り組み、スクールカウンセラー、心の教室相談員、さらに平成23年度から導入したスクールソーシャルワーカーによる教育相談体制の充実化、子ども会や青少年のための市民会議等による各種青少年育成活動により、施策及び基本事業ともに成果指標の後期目標はおおむね達成できる見込みです。

基本事業05-03-01 青少年健全育成活動の充実

目的	家庭、学校、地域が連携して社会ルールの理解や遵守の教育を行います。また、ボランティア活動や体験学習などの地域教育を通じて、青少年の健全育成を目指します。			
対象	小・中学生、高校生、保護者、地域住民			
成果指標	後期基準値 (平19)	現状値 (平22)	見込値 (平25)	後期目標 (平25)
健全育成の活動のために学校・家庭・地域が連携して行っている取組み事業数(件)	57	64	65 A	60
ボランティア活動や体験学習活動に参加する児童・生徒の割合(%)	60.2	57.5	58.0 B	→

基本事業05-03-02 心のケアの充実

目的	学校生活や家庭生活上の悩みを抱える青少年及び保護者が悩みを相談する場を充実させ、解決することにより心身ともに健康な生活を送れるようにします。			
対象	小・中学生、高校生、保護者、地域住民			
成果指標	後期基準値 (平19)	現状値 (平22)	見込値 (平25)	後期目標 (平25)
相談が役に立ったと思う児童・生徒・保護者の割合(%)	89.9	88.2	90.0 B	→

A：達成見込み、B：おおむね達成見込み、C：達成困難

施策05-04 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造

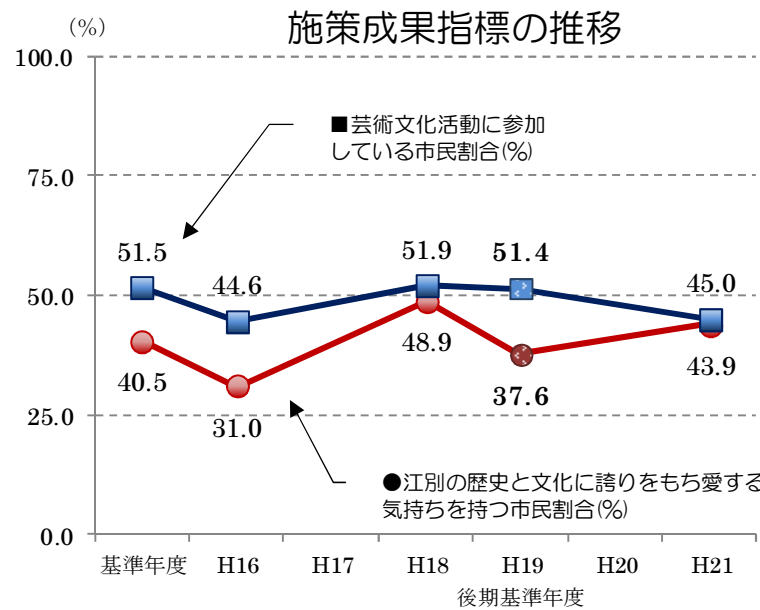
目的	鑑賞型の文化事業に加え参加・育成型の文化活動を支援するとともに、文化財を保護し、歴史的遺産を活用した環境整備を進めることによって、市民のふるさと意識を醸成します。			
対象	市民、文化財、歴史的遺産			
成果指標 (施策の目的達成度を示す指標)	後期基準値 (平 19 年度)	現状値 (平 22 年度)	見込値 (平 25 年度)	後期目標値 (平 25 年度)
芸術文化活動に参加している市民割合(%)	51.4	(H21)45.0	52.0 B	→
江別の歴史と文化に誇りを持ち愛する気持ちを持つ市民割合(%)	37.6	(H21)43.9	44.0 A	→

前期基本計画取り組み結果

「心の癒し」や「心の豊かさ」、「いきがい」を芸術文化に求める市民が増えており、えぼあホールや市民会館における舞台公演、公民館での展示・発表活動、さらに旧岡田倉庫の活用など、NPOなど市民団体の手による文化活動が活発化しています。

一方、市史編さんや郷土資料館の郷土史学習、セラミックアートセンターでの企画展など、行政による取り組みも継続的に行なわれています。

しかしながら、市民参加による文化事業が乏しかったことや、歴史的建造物である旧ヒダ工場や林木育種場旧庁舎などの活用が進まなかったこともあり、成果指標である、「芸術文化活動に参加している市民割合」や「江別の歴史と文化に誇りを持ち愛する気持ちを持つ市民割合」が減少する結果となりました。



後期基本計画の取り組み状況と目標達成見込みの説明

基本事業の自主的市民文化・芸術活動の育成・支援については、NPO 団体などの市民団体が取り組む市民会館、えぼあホール、岡田倉庫等を活用した鑑賞事業などに支援することにより、成果指標の各種文化事業数は後期目標を達成できると考えています。しかしながら文化事業の参加者数については、景気の低迷や新型インフルエンザの蔓延などにより、参加者数の増加には結びつかず後期目標の達成は難しい状況にあります。今後も鑑賞事業への支援や文化協会や江別音楽協会などの団体活動を支援し、文化事業に参加する市民が増えるよう取り組んでいきます。

文化・芸術を支援する市民組織の育成では、市民文化団体、NPO 団体・芸術団体等への連携と支援を行ってまいりましたが、景気の低迷や新型インフルエンザの蔓延などにより、成果指標の芸術文化支援組織数、事業数ともに後期目標の達成は難しい状況にあります。今後もまちかどコンサートや市民ミュージカル活動の継続と芸術鑑賞への支援などを通じて市民組織の育成に努めていきます。

文化・歴史遺産の保存と継承については、郷土資料館やセラミックアートセンターでの企画展など郷土の歴史や文化に根差した事業に積極的に取り組むことにより、成果指標の後期目標はおおむね達成できると考えています。

れんがの保存と活用では、旧ヒダ工場の民間利活用の公募を行いました。具体的な提案を受けるには至っていない状況です。しかし、やきもの市でのれんがドミノの取り組みによる啓発や、れんがドミノに使用したれんが販売などにより、成果指標の後期目標をおおむね達成できる見込みです。

後期目標の達成が困難な基本事業もありますが、成果が上がっている基本事業の取り組みにより施策の成果指標の「芸術文化活動に参加している市民割合」、「江別の歴史と文化に誇りを持ち愛する気持ちを持つ市民割合」は、それぞれ後期目標をおおむね達成できると考えています。

基本事業05-04-01 自主的市民文化・芸術活動の育成・支援

目的	文化事業の補助・支援や施設整備により、市民が質の高い芸術文化に親しめる機会を増やし、理解を深めます。また、文化活動の場と発表の機会を広げ、活発に文化活動が行えるようにします。								
対象	市民、アーティスト、文化団体								
成果指標	各種文化事業数(件)	後期基準値 (平 19)	201	現状値 (平 22)	269	見込値 (平 25)	260 A	後期目標 (平 25)	250
	各種文化事業参加者数(人)	85,863	76,972	87,000	C	90,000			

基本事業05-04-02 文化・芸術を支援する市民組織の育成

目的	文化支援のNPOや市民メセナ（芸術文化支援活動）などを育成支援し、市民の手による芸術文化事業を拡大します。								
対象	市民、NPO等文化・芸術団体								
成果指標	NPO等の芸術文化支援組織数(件)	後期基準値 (平 19)	3	現状値 (平 22)	3	見込値 (平 25)	3 C	後期目標 (平 25)	5
	市民組織による芸術文化事業数(件)	85	85	85	C	90			

基本事業05-04-03 文化・歴史遺産の保存と継承

目的	史跡整備や文化財・まちの歴史の調査などを行い、江別市の文化・歴史遺産を後の世代に正しく継承します。								
対象	市民、郷土の歴史や芸能等の継承に関わる団体								
成果指標	文化財や歴史遺産の継承と保存活用により個性豊かな文化が育っていると思う市民割合(%)	後期基準値 (平 19)	44.0	現状値 (平 22)	(H21) 43.8	見込値 (平 25)	45.0 B	後期目標 (平 25)	→

基本事業05-04-04 れんがの保存と活用

目的	歴史的れんが建造物の保存・活用を図るとともに、れんがの活用を進めます。								
対象	市民、歴史的遺産								
成果指標	れんがのまちを誇りに思う市民割合(%)	後期基準値 (平 19)	74.0	現状値 (平 22)	(H21) 78.1	見込値 (平 25)	79.0 A	後期目標 (平 25)	→
	れんがを活用している市民割合(%)	42.3	42.4	43.0	B	→			

A：達成見込み、B：おおむね達成見込み、C：達成困難

施策05-05 市民スポーツ活動の充実

目的	スポーツ活動の場や機会を充実させ、市民一人ひとりが自らスポーツを行うことにより、心身ともに健康な生活が営めることを目指します。			
対象	市民、体育施設(市内大学の体育館を含む)			
成果指標 (施策の目的達成度を示す指標)	後期基準値 (平 19 年度)	現状値 (平 22 年度)	見込値 (平 25 年度)	後期目標値 (平 25 年度)
週1回以上スポーツ活動に親しむ成人市民割合(%)	32.8	(H21)30.6	34.0 B	↗

基本事業05-05-01 スポーツ・レクリエーション施設の充実

目的	各種運動施設の整備とともに、市内大学との連携により、大学体育館の活用を図るなど、市民がスポーツ・レクリエーション活動を充分に行えるようにします。								
対象	市民、体育施設								
成果指標	スポーツ施設利用者数(市内大学の体育館利用者を含む)(人)	後期基準値 (平 19)	873,841	現状値 (平 22)	851,048	見込値 (平 25)	900,000 C	後期目標 (平 25)	960,000
	スポーツ施設整備の満足度(%)		66.2	(H21) 68.3		70.0 A		↗	

基本事業05-05-02 スポーツ・レクリエーション機会の充実

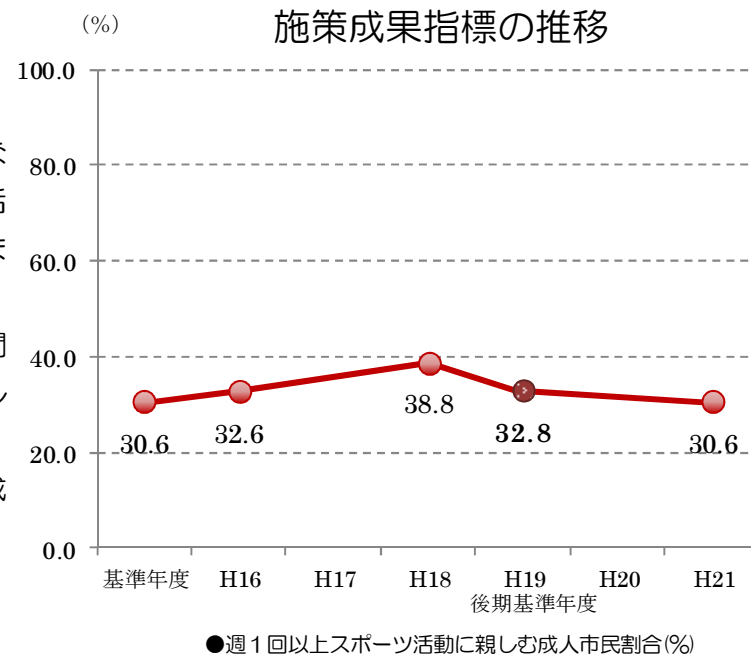
目的	スポーツ団体の育成や地域での活動を推進することによって、誰もが自分にあったスポーツ・レクリエーション活動に参加できるようにします。								
対象	市民								
成果指標	スポーツ・レクリエーション講座の充足度(講座・大会数)	後期基準値 (平 19)	44	現状値 (平 22)	54	見込値 (平 25)	55 A	後期目標 (平 25)	45
	スポーツ機会が充足していると思う市民割合(%)		71.9	(H21) 72.4		73.0 A		↗	

前期基本計画取り組み結果

スポーツ種目や活動形態の多様化が見られるなか、総合型地域スポーツクラブを立ち上げ、その活動を推進するなど生涯スポーツの活性化に努めました。

また、体育施設に指定管理者制度を導入し、民間のノウハウによる施設利用の活性化を目指しました。

その結果、「週1回以上スポーツ活動に親しむ成人市民割合」はほぼ横ばいとなっています。



後期基本計画の取り組み状況と目標達成見込みの説明

基本事業のスポーツ・レクリエーション施設の充実については、計画的な屋内・屋外体育施設の補修や改修などにより、成果指標のスポーツ施設整備の満足度は後期目標を達成できる見込みですが、スポーツ施設利用者数は、新型インフルエンザの蔓延、景気の低迷などにより目標達成は難しい状況です。今後も市民体育館等の体育施設が快適に利用できるよう施設の改修整備を行い、市民で構成するスポーツクラブが学校の体育館を利用してスポーツ活動がしやすい場所を提供することにより利用者の増加に努めていきます。

また、スポーツ・レクリエーション機会の充実についての成果指標であるスポーツ・レクリエーション講座の充足度、及びスポーツ機会が充足していると思う市民割合については、指定管理者や関係団体との連携により市民周知を含め成果があがっており、後期目標を達成できると考えています。

こうした基本事業の取り組みがほぼ順調であることから施策の成果指標の週1回以上スポーツ活動に親しむ成人市民割合については、後期目標をおおむね達成できると考えています。